



山王網一色 ほっと通信

第8号

山王70区自治会

2025.10.3

市民と市長 地域コミュニティについて意見交わす

「人が出会い、つながり、支え合うコミュニティづくり」を重要テーマに掲げる小田原市の加藤憲一市長と地域住民が日々の活動等について、意見を交わす「地域活動懇談会」が9月25日夜、山王70区公民館で開かれました。同会には、市長はじめ地域コミュニティに関わる職員、山王網一色まちづくり委員会のメンバーら20数人が参加しました。



市長は、まちづくり委員会を活用した防犯パトロールや河川清掃等の活動事例、地域を支える補助金・支援制度の拡充などについて説明しました。また、市の「いきいき補助金」を活用し、子どもを主体にしたイベントで地域活性化に取り組む山王青年会の活動にも期待を込めました。

会場からは、高齢化と少子化に伴う自治会加入者の減少など地域の現状を挙げ、10年、15年後における役員のなり手不足を憂う意見や子ども会、スポーツ団体などを対象に“地域交流の楽しさ”を知ってもらいイベントを開催し、コミュニティを形成するのも必要、などの声もありました。子どもとシルバー層を巻き込んだコミュニティが防犯・防災に繋がるとの提言もありました。

新加入です／よろしく お願いいたします

自治会役員(14人体制へ) (敬称略)

地域住民の

安全・安心を紡ぐ

堀 一夫

住所／東町 3-4-4

分科会／広報SR

趣味／温泉に入ること

海を見ること

抱負／地域貢献に尽力します

担当組／1-1、1-3、2-4



遊撃隊(7人体制へ)

大規模災害時の

お助けマン

大川 誠

住所／東町 1-20-15

趣味／筋力トレーニング

抱負／いつ起きるか分からない大規模災害。

一人でも多くの人を

助けたい



“地域と災害の特性”を知る

防災・減災へ一歩ずつ

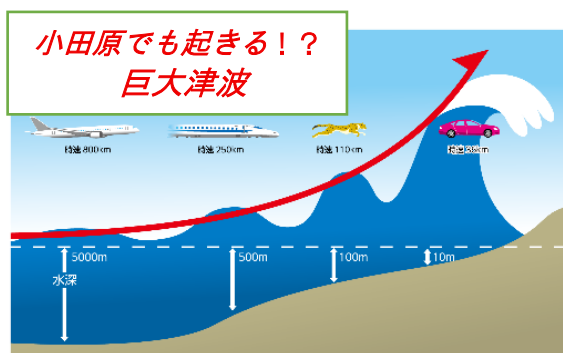
第2回組長常会&防災出前講座



山王70区自治会では9月27日夜、山王網一色地区の“災害特性”を学び、11月8日の市一斉防災訓練に活かそうと、「防災出前講座」を70区公民館で開きました。講師は、自衛隊出身で令和5年から小田原市防災部に務める津川正宏専門監。山王網一色地区自治会連合会を構成する4自治会長と70区防災リーダー傘下の遊撃隊にも呼びかけました。

会場には組長ら約60人が参加、地震・津波・高潮など山王網一色における“地域・災害特性”など命を守る防災・減災への一歩を学びました。

津川さんは、山王網一色地区は相模湾に面し、2級河川の酒匂川と山王川に挟まれ、津波・高潮・洪水の危険性が高い。標高は、平野部で10m以下。地盤は、海岸沿いは三角州・海岸低地。北側は扇状地など、と地理・地盤的な“特性”を分かりやすく話しました。



津波については、東日本大震災の巨大津波(16m)を例に、「津波の高さは、海の深さで決まる。水深が深くなるほど遅くなるため、後ろの波が前の波に追いつき、高い波になる」と発生のメカニズムを解説しました。

東日本は「日本海溝」から約200km離れ、徐々に浅くなり、浅瀬が長いので津波は高くなりやすい。小田原は「相模トラフ」から約40km離れ、急激に深くなり、浅瀬が短いため、津波は高くなりにくい、と過去の災害でも

津波被害が少ないと言われる地域の災害特性を強調しました。

最後に、「地区防災計画は、地震や津波などの災害発生時に、住民の皆さんが協力して“救える命”を機能させるための計画。皆さんの自発的な発意によって作成することが重要」と締めくくりました。



質疑応答で、津波に対する防潮堤と西湘バイパスによる2重防護について「同バイパスは道路仕様で建設されており、強靱性に問題があるのではないか」との質問もありました。

津川さんは、「想定外をなくすため、2000年に1回あるかないかの相模トラフ沿いの海溝型地震」による津波高でシミュレーションした結果、西湘バイパスの強靱性には問題ない」と答えました。

70代の女性は、「今までは、地震、津波に対する恐れだけだったが、地域の特性を知ることによって何をすべきか分かった気がする」と話していました。